とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

クラス　　３歳　さくらぐみ

１　活動テーマ
＜テーマ＞
「自然遊び」
・虫の飼育、生態を知る

＜テーマの理由＞（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など＞
・戸外遊び中、虫への関心の強さが見られる。
・虫の飼育、観察、子ども同士の関りの中から楽しいと思う気持ちや「なんだろう」と不思議に感じる気持ちをさらに膨らませ、色々な発見や「こうしてみよう」の発想に繋がるようにしたい。

２　活動スケジュール
① 戸外散歩中の虫探し
② 虫を捕まえてくる
③ 図鑑を見て飼育に必要な環境（餌や虫の好む環境など）を子どもと確認する
④ 子どもが発想の中心となり、環境設定等を行う

３　活動のために準備した素材や道具、環境の設定
（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
・虫かご
・持ち帰り用のケース
・コバエよけシート
・虫取り網
・様々な種類のエサ
・様々な虫図鑑
・卵から成虫になるまでの成長過程の壁面ポスターを掲示

４　探求活動の実践
＜活動の内容＞
① アゲハ蝶の幼虫、カタツムリを探す。
② アゲハ蝶の黒い幼虫やカタツムリを見つけ、飼育を開始する。
③ 図鑑や壁面のポスターを見ながら、子ども同士で成長過程を確認したり、エサは何を食べるのかを話したりしている。
④ どこに口があるのか、触覚のようなものは何なのか、どうやって動いて移動するのか等、幼虫の観察をする。
⑤ 幼虫の色や姿が変化した事に気がつき、脱皮について興味をもち、図鑑と見比べる。
同時に次の成長過程にも興味をもち、サナギになる過程を調べる。
⑥ 「英語であそぼう」の保育時間に、蝶の絵本が出てくると、英語講師と絵本を見ながら会話を楽しんで

いる。

⑦ 幼虫がサナギになると、図鑑だけでなく絵本に載っている蝶のサナギと見比べるようになる。

⑧ 登園と同時に羽化している蝶に気がついて、観察したり、蝶になりきって飛ぶ真似をしたりしている。

⑨ リズム遊びの中で、アゲハ蝶の卵から羽化するまでの姿を取り入れると、アゲハ蝶の様子を全身で表現している。

⑩ 戸外で羽化した蝶を放ち、飛び立っていく様子を見守る。

＜活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中みられた子どもの姿、保育者との関わり等）

① 園の近くにある小さめな木の周辺を（去年幼虫を見つけた場所）を散歩の時に確認し、幼虫を探した。なかなか見つからず「隠れているのかも」「いないのかな」「どこにいるのかな？」と話し合い、図鑑を開いて幼虫がどんな姿なのか、どんな風にくっついているのかを調べていた。「え？黒いの？」「緑のもあるの？」「これアゲハ蝶なの？」「これがこれになるの？」と何度も確認しながら、柑橘系の木を見つけると黒や緑の幼虫を探そうと張り切っていた。

② 五月上旬、レモンの木に幼虫を発見。「いたー！」と興奮する子、「これ？」と不思議そうな表情で観察し続ける子がいた。

③ 柑橘系の葉っぱとそれ以外の葉っぱとの見分けがつかない為、幼虫がいた葉っぱをエサとして持ち帰る子もいれば、散歩中に「これ食べるかも」「これあおむしさんにあげる」と目についた落ち葉や木の実を持ち帰り、虫かごに入れる子もいた。

④ 幼虫には興味があるが、アゲハ蝶になるイメージがわかない様子があったため、卵から羽化するまでの経過を簡潔な説明と写真でめくれるポスターを作成した。幼虫の近くに貼っておいたところ、写真を見て「これなんだ？」「これが目だよ」「これうんちじゃない？」「足はどれ？」等と子ども同士で話し合い、見比べる姿があった。

⑤ 脱皮した幼虫の姿に気がつき、壁面のアゲハ蝶の成長過程をやじるしを辿って何度も確認したり、飼育中の幼虫とじっくり見比べたり、子ども同士で指さしをして今はどの成長過程なのかを話し合ったりする姿が増えていった。子ども同士で意見がぶつかると、保育者に今はどれなのかを確認することもあった。

⑤ 幼虫の葉っぱの食べ具合いを「これは好きなんだね」と見たり、図鑑を保育者と確認しながら幼虫の触り方を知り、「そーっとだよ！」と子ども同士で声をかけ合いながら順番に手に乗せようと試みながら、親しみをもって飼育を楽しんでいた。

⑥ 「英語であそぼう」の時間に、絵本に蝶が出てくると、「おなじだ！」「みて！これと一緒！」「これになるんだよ」と大喜びで英語講師に幼虫を見せていた。

⑦ 幼虫がサナギになると、「あ！同じだ！」と『はらぺこあおむし』の場面と見比べ始める子が現れ、友だちに「これがこれなんだよ」と教える子ども、「なんかちょっとちがうよ」と言いながらも興味津々で観察する子、「え？じゃあつぎは蝶になるの？」と絵本をめくったり、壁面のポスターをチェックしに行く子がいた。

⑧ ６月 17 日、登園と同時にサナギが羽化した事に気がつくと、大喜びで友だちに伝えて蝶々を観察している。そのうちいつも走っているスペースで、両手を羽ばたかせて蝶になりきって遊ぶ子どもの姿が増えてきた。

⑨ リズム遊びの中で、卵→幼虫→サナギ→羽化と順をおって保育者が表現して見せると、子ども達もそれぞれの場面をピアノに合わせて再現しながら全身でアゲハ蝶を表現していた。

⑩ 蝶の羽が少しずつ傷んでくる様子を見て「かわいそう」「お外行きたいんじゃない？」と子どもたちから

声があがり、保育者を中心にクラスみんなで相談して外へ放つ事になった。

５　振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・散歩中に、虫の幼虫や成虫を見つけると、「これはてんとう虫の赤ちゃん」「これはてんとう虫」と理解している様子であったが、同じ生き物という認識が難しく、実際に飼育をして成長をしていく過程を見る事で成長過程を理解する様子があった。また、今回アゲハ蝶の成長過程に気がついた事で、図鑑やポスターにある他の虫の変化に気がつき、「もしかしてこれも大きくなったらこれになるの？」と子どもの中での気づきに繋がっていた。

「自分で発見する」という事が子どもたちの好奇心や気づきに繋がり、そこからさらに「自分で調べる」事に発展し、子どもの興味・関心の視野が広がっていく様子を感じる機会が多かった。

・飼育用のエサを探す中で、「これは喜ぶかも」等と想像力を膨らませながら嬉しそうに葉っぱを探したり、幼虫を観察しながら、「今眠いのかも？」「お腹空いてないのかな？」と虫の気持ちを考えて友だちと会話を楽しむ姿が育まれた。また、幼虫や脱皮後の皮を触ったり、羽化した後のサナギの皮を絵本と比べたり触っ

たり、においを嗅いだりして好奇心を満たそうと積極的な子どもの姿が見られた。
・公園で見かける蝶々は「つかまえたい！」と虫取り網を持ってがむしゃらに追いかけまわす子ども達だったが、飼育した蝶々を見て、「きれい！」「蝶になったね！嬉しいね！」と観察を楽しむ一方、飼育ケースの中で羽ばたいてはぶつかり、羽が痛む様子を見て、「かわいそう」「ケースから出たがってるのかも」「お外に出してあげよう」と保育者に逃がそうと提案する子どももいた。飼育を通して生き物に愛着をもち、思いやりの気持ちが育まれていることを感じた。